

提出日： 令和3年3月9日

所属： 獣医学部 基礎教育系

氏名： 委文 光太郎 職位： 准教授

## I ティーチング・ポートフォリオ

### 1. 教育の責任（教育活動の範囲）

※分量（字数）はあくまで目安ですので、超えても構いません。内容を優先して下さい。（以下同じ）

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
基礎科学英語	獣医学科	必修	1年次	37名
基礎科学英語	動物応用科学科	必修	1年次	36名
基礎科学英語	臨床検査技術学科	必修	1年次	32名
英語講読3	食品生命科学科	必修	2年次	26名
英語講読	獣医学科	選択必修	1年次	45名
英語講読I	動物応用科学科	選択必修	1年次	62名
ライティング基礎3	食品生命科学科	必修	2年次	26名
英語特別演習	動物応用科学専攻	選択必修	MA1年次	10名

獣医学部と生命・環境科学部の臨床検査技術学科ではリーディングの授業を担当しています。また、食品生命科学科と大学院では、前期にリーディング、後期にライティングの授業を実施しています。

### 2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

英語の語学力は社会人に求められる重要なスキルのひとつであるという言葉をよく耳にしますが、実社会の中で英語を使用する機会はかなり限定されているように思われます。にもかかわらず、就職や大学院進学の際に英語の語学力が求められることがあるのも紛れもない事実です。これまで教員として働く中で、単に英語が苦手という理由だけで、入りたかった企業への就職や希望する大学院への進学が叶わなかった学生さんを実際に目の当たりにしてきました。学生の皆さんには英語が自分の夢の実現への足枷とならないように、少しでもそれを後押しする力となるように、（卒業研究を行う際にも英語は必要になるので）1年次から2年次の間にしっかり英語と向き合って、運用能力を高めてほしいと願っています。

### 3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法）

上に述べた理念の実現のために、担当する授業で最も重視しているのが「予習」です。予習をせずに英語の力を伸ばすことはできないと私は考えています。確かに、予習をせずに試験前に難しい英文の訳などをひたすら暗記して、テストで高得点を取ることも不可能ではありません。しかしそのようなやり方では、単語や熟語の知識は身につくかもしれませんが、読む力や書く力の向上は期待できません。

そのため、授業では一人でも多くの学生さんに予習をしてもらえるように（今年度はコロナ禍によるオンライン授業だったため実施できませんでしたが）、ランダムに指名して答えてもらい、平常点の一部として積極的に評価するようにしています。

また、予習を促すために教材選びも大切にしています。学生の皆さんは他にもたくさんの授業を履修しているので、英語に多くの時間を割くことは当然できません。英語の学習に対して高いモチベーションを維持することもそう簡単なことではありません。そのため、少しでも読んでみたくなるような各学科の専門分野に則した興味深い内容の英文を選んで（時にはアンケートを取って希望を聞きながら）、予習した上で授業に臨むようお願いしています。さらに配布資料に余白があれば、学習意欲を高める一助として、英文内容に関連するイラストや写真なども可能な限り入れるよう心掛けています。

最後に、授業内での学生さんの回答に対しては、たとえ間違っても必ず肯定的なコメントをするようにしています。英語にも得意・不得意がありますし、何よりも頑張って予習してきたことを評価することで、次の予習に対するモチベーションも上がるように思うからです。

アクティブラーニングについての取組現時点でアクティブラーニングについて積極的な取組は行っていません。今後の課題にしたいと思います。

#### ICT の教育への活用

オンライン授業の中で文法などの詳細な説明や模範解答の提示をする際にパワーポイントを使用しました。それに対し、複数の学生さんから「わかりやすかった」などの好意的な反応がありました。

#### 4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

##### ①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C）

B：今年度はコロナ禍によるオンライン授業であったため、音声の聞き取りやすさや共有画面の見やすさなどにばかり気を取られ、それ以外のことにはあまり手が回りませんでした。もし仮に今後も同様の授業形態であれば、指名方法などについても配慮していきたいと考えています。

##### ②学生の理解度の把握（A～C）

B：通常時の授業では、ランダムに指名して回答してもらうことで理解度を把握していましたが、今年度はそれができなかつたので、授業後に小テストを実施することで理解度の把握に努めました。

##### ③学生の自学自習を促すための工夫（A～C）

B：通常時の授業ではランダムに指名することで予習を促していましたが、今年度はそれができなかつたので、授業後に小テストを実施することで予習を促すことに努めました。

##### ④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A～C）

A：授業後に質問があった場合は Meet かメールで丁寧に答えるように努めました。

##### ⑤双方向授業への工夫（A～C）

C：今年度はコロナ禍によるオンライン授業であったため、通信データ容量等の問題から、通常時の授業のように指名して答えてもらうことはしませんでした。もし仮に今後も同様の授業形態であれば、容量なども考慮しながら指名し回答してもらうことで双方向性を確保していきたいと考えています。

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

#### 5. 学生授業評価

##### ①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

昨年度の授業と今年度の授業はコロナ禍により実施形態が全く変わってしまったので、昨年度の授業評価結果を反映させることはあまりできませんでした。

##### ② ①の結果はどうでしたか。

同上です。

##### ③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

次年度は対面式授業に戻る予定なので、特に昨年度の授業評価結果をしっかりと反映させるつもりで準備しています。

<p>6.学生の学修成果</p>
<p>① <u>学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。</u>  <u>(参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。)</u></p> <p>毎回予習を課すようにしています。ただ口頭で言うだけではあまり効果がないので、授業中にランダムに指名して回答してもらい、それを平常点として成績の一部にしっかり組み込むようにしています。</p> <p>②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価</p> <p>授業評価アンケートを実施する際に、予め設定されている質問のほかに、「毎回予習をすることで読解力が身についた、英文を読むスピードが上がった、などを実感した人がいれば、是非そのことも書いて下さい」とお願いしたところ、多くの学生さんから「力がついたと思う」という主旨の意見をもらいました。</p>
<p>7.指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）</p> <p>録画の視聴も含めてほとんどの FD 研究会に参加しています。</p>
<p>8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）</p> <p>教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。</p> <p>学科による偏りもありますが、授業評価アンケートの結果を見る限り、まだ予習が十分でない学生さんが各クラスに一定の割合で存在しています。一人でも多くの学生さんが予習をした上で授業に臨むように、今後も様々な方法を考えていきたいと思います。また昨今、予習や課題に翻訳ソフトを使用するケースも目立ってきているので、課題の出し方や授業の実施方法なども十分考慮していく必要があると感じています。</p>
<p>9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ 授業評価アンケート結果</p>